

環境省の取組について



環境と子どもの健康に関する国際作業グループ

(Environment and Child Health International Group : ECHIG)

目 的 : メンバー間における情報交換、研究プロセスのハーモナイゼーションにより、調査手法の比較、データ統合解析
調査結果の複合解析 (combined analysis) 、データ・プーリングの手順を開発すること

参加者 : 日本、ドイツ、ノルウェー、デンマーク、フランス、中国、米国の大規模コホート調査等に所属する専門家世界
保健機関 (WHO) の国際がん研究機関 (IARC) が事務局として参加

ECHIG 定例会議	隔月で開催されるWEB会議の内容を把握。
ECHIG 第19回対面会合	令和 6 年11月、第19回環境と子どもの健康に関する国際作業 グループ会議に現地出席し、取組の報告や意見交換を実施。 (フランス・リヨン)

その他

政府との連携	令和 6 年11月、ドイツ政府の担当者と意見交換を行い、化学物質と健康影響に 関する研究協力推進に向けた連携について検討を開始することで合意。 (フランス・リヨン)
政府との連携	令和 6 年11月、フランス政府保健省の担当者と意見交換を実施し、化学物質と健康影響 に関する研究協力推進に向けた連携について検討を開始することで合意。 (フランス・パリ)

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の広報戦略指針」（※）及び同指針に基づく広報戦略を踏まえ、調査対象者や医療機関・研究者に加えて、広く一般の方々にエコチル調査を理解してもらい、調査参加者に長期にわたる追跡調査に継続して参加してもらえるような意識を醸成すること及び調査成果の正確な情報発信・社会還元を図るため、様々な広報活動を実施。

※令和5年3月改定（エコチル調査戦略広報委員会／参加者コミュニケーション専門委員会）

シンポジウムの開催

- 第14回エコチル調査シンポジウム

成果の情報発信

- ホームページ等による情報提供
- 論文報道発表の公表
- パンフレット等の配布

その他の広報活動等

- 動画配信（13歳以降の調査の推進に向けた取組）
- 科学館等における展示物（ケミカルパズル等）の活用
- エコチル調査サポーター登録・メールマガジン配信
- 学会での講演
- 外部との連携
- リスクコミュニケーション研修
- 広報活動の効果測定
- 広報戦略指針を踏まえた今後の広報活動の検討
- ホームページのリニューアルの準備
- エコチル調査全国大会の企画検討

シンポジウムの開催



■ 第14回エコチル調査シンポジウム

日程：令和7年3月2日（日）13:00～16:15

会場：なんばスカイオコンベンションホール（大阪市）

定員：第一部、第二部 各々250名程度

プログラム詳細：

https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/2024/14th_symposium.html

- エコチル調査の取組や調査で得られた成果等を分かりやすく紹介し、エコチル調査について多くの方々に理解を深めていただくとともに調査参加者の継続意識の向上につなげることを目的として、年1回、シンポジウムを開催。
- 令和6年度は、初めて関西（大阪市）で開催（東京以外で初）。（大阪、京都、兵庫ユニットセンターに近い）
- 見る聞くだけではなく、“発見・学習”につながる工夫と仕組み作りを実践（モノづくり体験、分析体験、クイズや質問コーナーなど）。体験型展示の充実。最後まで参加いただく工夫として最後に抽選会を行い国立環境研究所の見学会に招待。

成果の情報発信

■ ホームページ等による情報提供

- エコチル調査の論文を一般向けにわかりやすく伝えるため、平成30年6月から和文抄録付きの成果発表一覧を掲載、随時更新。
- 中心仮説に関する論文の報道発表は、新着情報としてトップページに掲載。
- シンポジウムの動画や資料、対話事業の資料を掲載。

■ 論文報道発表の公表

- 中心仮説に関する論文発表時に、大学や国立環境研究所が報道発表し、環境省のホームページでもお知らせ。
- 正確な情報伝達のため、平成30年度に戦略広報委員会で報道発表のプロセスと資料の様式、チェックリストを作成し、関係者に周知して運用。

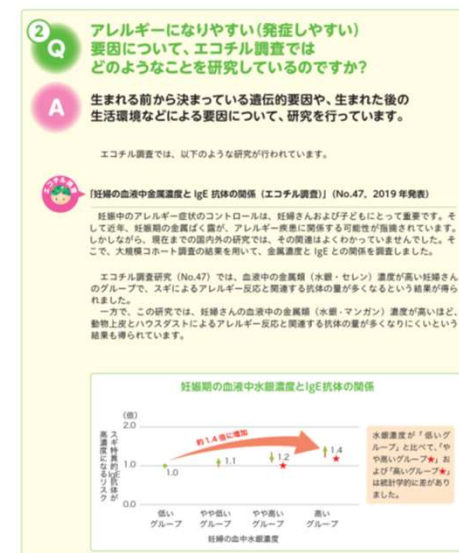
■ パンフレット等の配布

- エコチル調査の概要を解説したパンフレットの増刷・配布。
- 令和6年4月に更新した「成果紹介パンフレット」を、希望するユニットセンターに配布。シンポジウム、学会でも配布。



環境省ホームページの発信例

https://www.env.go.jp/chemi/ceh/news/page_00074.html



成果紹介パンフレットの例

<https://www.env.go.jp/content/000215015.pdf>

その他の広報活動等①

■ 動画配信（13歳以降の調査の推進に向けた取組）

- 調査の概要や継続の意義等に関する動画をYouTubeの環境省動画チャンネルで配信継続（ユニットセンター配布動画の使用期間を令和 7 年3月まで延長）。



■ 科学館等における展示物（ケミカルパズル等）の活用

- 調査の認知度向上と内容理解促進を目的に、全国の科学館に貸出。
- 調査対象地域等においてエコチル調査関係者へ展示物の貸出。
- 令和 6 年度貸出数(予定含む)：
科学館 6 箇所（前年からのリピートあり）、ユニットセンター 1 箇所、シンポジウムで活用。



■ エコチル調査サポーター登録・メールマガジン配信

- 調査に対する社会全体の理解と応援を得る目的で、サポーター登録制度を設け、登録していただいた方には最新情報を掲載したメールマガジンを配信。
- 令和 7 年2月20日現在、サポーター数は約3,600人、メールマガジンは通算113号。

その他の広報活動等②

■ 学会での講演	● 第83回日本公衆衛生学会総会で講演
■ 外部との連携	● 成果に係る報道発表等の情報を関係行政機関、関連学会に情報共有。 ● エコチル調査に関連する様々な業種の企業にエコチル調査の概要説明を行うとともにエコチル調査との連携等について意見交換を実施。 ● 文部科学省地域学習支援室等とエコチル調査の広報に関する意見交換を実施。
■ リスクコミュニケーション研修	● エコチル調査ユニットセンターの担当者を対象としたリスクコミュニケーション研修を開催（令和7年2月18日）。
■ 広報活動の効果測定	● エコチル調査に関する報道、SNS投稿等のモニタリング及び分析の実施
■ 広報戦略指針を踏まえた今後の広報活動の検討	● 「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の広報戦略指針（令和5年3月改定）」及び同指針に基づく広報戦略を踏まえて今後の具体的な広報活動に関する戦略案を検討中。
■ ホームページのリニューアルの準備	● エコチル調査ホームページリニューアルに向けて、リニューアル方針を検討中。

その他の広報活動等③

新規取組

■エコチル調査全国大会の企画検討

【目的】 全国規模のイベント（仮称 エコチル調査全国大会：以下全国大会）を通じて、こども達に「**自己表現の場**」、「**様々な未来の可能性を知る場**」、アカデミア・産業界等に「**人材育成のための場**」を提供し、「**エコチル調査の意義**」を国民に広める。

【大会の概要(案)】

- 対象：小学生、中学生、高校生及びその保護者の世代※
※全国大会の観覧の年齢制限はなし。ただし、各イベントの参加資格は年齢、カテゴリーの制限あり。
- 基本方針：
 - ①エコチル調査研究発表会、②エコチル調査文化祭、③エコチル調査体育祭からなる。
 - 国立大学との連携により大学キャンパスを利用。
 - 10月もしくは11月の3連休の土曜日、日曜日の2日間の開催。

①エコチル調査研究発表会	こども達（小中高生）自らが、エコチル調査結果を用いて研究発表を行なう事によって、科学的思考を育み、未来の研究者の育成の場とする。
②エコチル調査文化祭	こども達に「自己表現の場」、「様々な未来の可能性を知る場」、アカデミア・産業界等に「人材育成のための場」を提供する。
③エコチル調査体育祭	体育祭を通してこれまで周知が困難だった体育会系のこども達にも、環境省の取り組みを周知する。